

あさひかわ男女共同参画だより

ハーモニー

平成24年度の事業結果を報告します

- ・旭川市男女共同参画講演会・・・・・・・・・・1～4P
 - ・あさひかわ男女共同参画フォトコンテスト・・・・・・・・5P
 - ・第2回旭川市男女共同参画リレー講座・・・・・・・・6P
 - 市内男女共同参画推進団体リレー紹介④・・・・・・・・7P
- (旭川市母子福祉連合会)

(発行)
旭川市総合政策部政策調整課(男女共同参画担当)
070-8525 旭川市6条通9丁目46番地
電話：25-5358
E-mail：seisakuchosei@city.asahikawa.hokkaido.jp
HP：<http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/seisakuchosei/>



平成24年度の事業結果を報告します

今年度下半期における、各種取組についてご報告します。

〇旭川市男女共同参画講演会

「～女（ひと）と男（ひと），思いやりの心で～」

・会場：旭川市大雪クリスタルホール 大会議室

・日時：平成25年1月19日（土）

13：30～16：00

【基調講演】14：00～15：30

「マスオさんの男女共同参画のすすめ」

ご自身の少年時代や講演活動における体験談，サザエさん一家の話を交え，言葉の大切さという観点から，人との接し方，男女共同参画について話されました。

以下，増岡さんがお話された内容を一部紹介します。

講師：増岡 弘さん

埼玉県岩槻市生まれ。「サザエさん」のマスオさん役，「それいけアンパンマン」のジャムおじさん役でお馴染みの人気声優。人に対する「心，言葉の重み・大切さ」を通じて明るい家づくりや男女共同参画社会の実現へ向け，全国で講演活動を行っている。

言葉というのはいつも相手に対するプレゼントです。褒める言葉もしかる言葉も励ます言葉もみんなプレゼント，相手にあげるものですからプレゼントなんです。



人は使った言葉の中に生きています。ですから良い言葉を使えば良い生活になるのが当たり前。もし悪い言葉を使ってしまったら，残念ながら悪い生活になってしまうのです。

男女共同参画ってというのは当たり前のことなんですよね。何時も昔の世からそうでなければならぬんですから。

男女共同参画の基本は夫婦仲が良いというこ

とです。これが一番大事な出発点。そしてまた家族の，人間の，世の中の，一番の基本は夫婦仲が良いこと。このことは体の健康にも心の健康にも良い。相手を尊敬し合えることが一番大切なんです。

私たちは今ある幸せに気付かず，幸せを失って初めて「ああ，あの時幸せだったのに」健康を失って初めて「ああ，あの時丈夫だったのに」と気付きます。今ある小さな幸せ，かすかな幸せを十分身に感じての毎日が大切なんですよ。

いつの間にか日本中が，100点社会になってしまいました。100点じゃないと点数じゃないと思いませんか，皆さん。あれも欲しい，これも欲しい，全部手に入らないと自分の人生じゃないと思いませんか，皆さん。100点社会なんてどこにもありませんよ。点数というのは感ずる心。5点でも10点でも良いんです。それを感じずる心があったら十分に幸せになります。

ふとした言葉やふとした態度で相手の心に傷を付けると，残念ながら一生治すことができません。その心につける薬はありません。その傷を抱えての日常生活となるのです。



【意見交換】15:30～16:00

参加者の皆様から予めお聞きしていた質問事項等を基に、コーディネーターの勝浦さんの進行で、会場の皆様と増岡さんとの意見交換を行いました。

以下、意見交換の内容を紹介します。

コーディネーター：勝浦 恭子さん

ライター・編集者。旭川市男女共同参画審議会会長も務めており、旭川市の男女共同参画社会実現へ向け、幅広く活動している。



【勝浦さん】

最初の質問です。今は核家族の家庭がほとんどです。サザエさん一家のように三世代が一緒に快適に生活するには、かなり大きな家が必要になると思います。

もし狭い家に一緒に生活したとしても、嫁姑問題などでギクシャクしてしまう可能性が高いのではないのでしょうか。身近にそうした人の話もよく聞きます。

サザエさん一家のように各世代を通じて仲良く生活する秘訣はなんでしょうか。

【増岡さん】

サザエさんのうちは、私たちがうらやむほどの広さがあり、しかも3世代一緒に平屋建てです。

昔の日本の家庭をそのまま表しているように思います。鍵のない部屋に住んでおり、サザエさんがカツオちゃんやワカメちゃんの部屋をノックもしないで「カツオ～」といって開けてしまうなど、今の家庭とは違います。また、専業主婦が2人いる家族、なかなかありません。

40年間サザエさん一家を演じていると、サザエさん一家は、いつの間にか過去の世界ではなくて、30年後くらいの未来社会の姿ではないかと思うようになりました。私た

ちは古い家族を演じているのではなく、これからあるべき姿を演じているのではないかなと思います。

人間の生活って、回り回って同じところに戻ることがあります。（サザエさん一家は）そんな風な家族なのかなと思います。昔は人のことを思い、気を遣いながら生きてきたのですが、私たちはいつの間にか、自分本位となり、だんだんそうでなくなっていました。

私は、みんなが自分の好きなように生きるのでなくて、家族のためを思って生きるのがこれからの姿であり、人間の姿かなと思います。ですからサザエさん一家はこれまでの家族ではなくてこれからの理想的な家族のような気がしてなりません。確かに大勢で住むということは現実問題、なかなか難しいと思います。一つのアイデアとして、日本人全員が暮らす一戸の家を作ったらどうかという意見もありました。富士山のようにでっかいのを作ってね。こんな風に考えてみると、考えるだけでも楽しくなりませんか？



【勝浦さん】

引き続き、3世代同居に関連する質問です。日本では古くから、男性、特に長男家族と親が同居する形態が当たり前とされてきましたが、サザエさん家族のように、女性の側の親と同居することは「マスオさん現象」と言われました。この方が家族がうまくいくのでは、とも言われますが、男性から見て、自分の両親とは同居せずに、妻の両親と同居することをどう感じますか。また、もし増岡さんに結婚している息子さんがいたとして、自分の息子さんがお嫁さんの親と同居することをどう思いますか。

【増岡さん】

結婚するということも自由ですし、いろんな形の生活をするのも皆さん自由で、やっぱり、お嫁さんの実家で暮らして、お義父さんお義母さんに多少の気は遣いますが、とっても楽に生きられることがあるので、（このような形態が）世の中の半分くらいあっても良いんじゃないかなと思うほ

ど、私は自然な形で良いんじゃないかなと思います。昔からの風習で嫁にもらうとか、嫁に出すとかという考え方をちょっと変えるといくらでも自由な形がとれるのではないかなと思います。そういう意味で、サザエさん一家というのは一つのよいモデルで、しかも戦後すぐの時代に出来た、女性が主人公の漫画ですから驚きです。

波平お父さんとビール瓶で庭に花壇をつくってそれが足りないからといってへべれけに酔っ払ってしまうだらしのないマスオさんとお父さん。酒にはだらしがないし、お父さんの「馬鹿もの！」といって怒鳴る割には自分も馬鹿者を演じてみたり、サザエさんも出しゃばりであるのかなと思う部分と自分で反省する部分があったり、人は誰でもああいう過ちを犯してしまいそうですが、そんな家族のサザエさんと言う漫画は、ホームドラマであって、そこから学ぶ物は、家族を考えると参考になる番組であると思います。



学校教育では、「家＝いえ」というしか読み方がないですが、私たちが小さいときは「うち」というように発音していました。サザエさんの台詞では「うち」というふうに呼んでいます。

「いえ」と言うのではあったかみがないじゃないですか。英語でいうと、うち＝home、いえ＝houseという感じがして、そこに違いがあるような気がします。外国人もサザエさんから、日本語を覚える人が多いようです。

道具など、いろんな物が変わったりしたので、家族も変わったように感じますが、一つも変わっていないと思います。

【勝浦さん】

女性の方からの質問です。私には長く付き合っている彼がいます。たまにイラっとくることもありますが、人生のパートナーとして永く上手に付き合っていくための秘訣を知りたいです。

【増岡さん】

長く出演しているサザエさんの家族と実際の家族の2つの家族を生きていますが、どちらも腹の立つこともあるし、うまくいかないことも

あります。先天的に「あの人どうも（苦手）」と思うこともあります。それでも相手の価値観やすばらしさを認め、嫌いな部分と重ね合わせると、やっぱり良い方になるのです。

とっても才能があるが、言葉がちょっとよけいに腹が立つときがあるなと思う人に対して、それを除外するのではなく、相手は相手の価値観で言っているのだなというのを分からない自分を責めて、逆に相手を認めてあげることが出来たら一番良いと思います。なかなか出来ませんが、そういうことができるようになると、とっても良いカップルになると思います。相手と向かい合って話すと、どうしても相手の弱点や嫌なところが見えてすぎてしまいます。出来たら、食事するときなども隣り合わせて座ってみては。物は考えようでいくらでも変わります。

【勝浦さん】

次は、政策的なご質問です。男女共同参画社会の実現とは、男女がともに仕事をし、ともに家事を担うという考え方が基本になると思うのですが、日本でこうした男女のあり方が進むためには政策、文化的に何が必要だと思われますか？

【増岡さん】

やっぱり相手を認めるということ、平等であるということが大切だと思います。子どもでも女性でもお年寄



りでも全て平等であり、そういう平等なものをなかなか世の中認めてきませんでした。政治の分野でももっともっと女性がうんと出てきて、半分は決めたら良いと思います。政治だけでなく、全ての分野において半分は女性で良いと思います。

家庭においても仕事においてもみんな分散してやっていくのは当たり前であり、それは相手を理解すれば必ず出来ることで、これからは特にそういう風に思っ、平等の権利を持って、楽しく生きませんか？

また、子どもは瞬間を生きており、大人は日常を生きていますと言いますが、その時間の違い

を理解することも大事です。そして、女性の柔らかい考え方や何かを守っていく、そういう考え方も大事にしないといけないと思います。力で突き進む世界ではないと思います。一番先に出てきたことを捨てると、何でも出来るような気がしてなりません。つまり、うまいとか早いとかすごいとかと言うことを捨てると、ゆっくりでもいい、下手でもいい、それでも大事なことなんだと思えば。

例えば、こんな話もあります。「子どもが転ぶ」ということを取り上げて、日本のお母さんは「だめじゃないの、気を付けなきゃ」としながら子どもを立たせる。イギリスとかフランスでは、子どもが転ぶとそばにいて立ち上がるのをじっと見ている。アフリカのお母さんは、子どもが転ぶと同じように転び、立ち上がり、立ち上がり方を教える。どれが正しいのかは分かりませんが。

【勝浦さん】

最後の質問です。仕事でも家庭でもどんなに気をつけていても、異性に対して傷つけてしまったり、逆に傷ついてしまったりってあると思うのですが、そのあとのフォローや心構えなどがありましたら教えてほしいです。

【増岡さん】

なかなか、親しい人に「ごめんなさい」とは言えません。それと、本当の意味で「ありがとう、感謝します」と言う言葉を生涯で心を込めて、何回私たちは言えるでしょう。

このことを体験した人がいます。アメリカで留学し、ちょっと天狗になっていて、先生を馬鹿にしたり、嫌なことばかり言って、友達もいなくなり、どこか旅をしよう思い、中東の方に旅をして、大雪が降って、にっちもさっちもいなくなっていたところ、あるおばあさんが「どうしたんですか」と尋ねました。「この国に来て雪が降ってしまうし、空港で財布を落としてしまうし、さんざんですよ。こんちきしょー。泊まる場所はない。500円くらいで泊まる場所を探しているんだ」と言ったところ、おばあさんは「じゃ、うちへいらっしゃい。」と言ってくれました。「あなたは良い生活がしたいの？それとも悪い生活がしたいの？」「それはもちろん良い生活がしたいよ」とすると、おばあさんは、「魔法の言葉があるのよ。それは「ありがとう」と「感謝します」です。どんなに傷

つくことがあっても、「ありがとう」って心から言えたら、そこから人生って良くなるのよ。」と言いました。これから起こることに対しても「感謝します」ということが大事です。

空港で「感謝します」と言ったら、財布が見つかったといいます。実話です。

【勝浦さん】（終わりに）

改めて、今の魔法の言葉「ありがとうございます」「感謝いたします」という言葉を増岡さんに捧げたいと思います。どうもありがとうございました。

講演会アンケート

参加された方からいただきましたアンケートには、次のような御感想や御意見がございました。

- ・人、それぞれが心のバレーボールが出来れば、良い関係が出来るでしょうね。
- ・言葉の重要性を感じました。人に寄り添った思いやりのある言葉は本当に人を変えることが出来ると確信しました。ありがとうございます！！
- ・改めて、言葉の発する大切さ、責任を感じる事ができました。また、古き良き時代を思い出し、その情景が目に見えます。これからも良き時代と思えるような環境にしていかなければと考えさせられました。
- ・忘れかけていた大事なことを改めて考える機会になりました。ありがとうございました。
- ・自分の言葉を振り返る良いきっかけになりました。
- ・感動しました。心が洗われた様な気がしました。本日参加して良かった。ありがとうございました。

男女共同参画に対する市民理解の浸透を図るため、普段の生活の中で感じる身近な男女共同参画を表現したフォトコンテストを平成24年11月1日～平成25年1月10日の期間に実施しました。

男女共同参画審議会正副会長をはじめ4名の審査員により「テーマ性」、「主題性」、「着眼点」、「公共性」の観点から審査を行いました。

その結果、5作品が入賞し、平成25年1月19日の平成24年度旭川市男女共同参画講演会において表彰式を行い、入賞作品に選ばれた方々には、旭川市長から表彰状と記念品を授与しました。

【表彰式の様子】



【最優秀賞】	「これだれの」たたみ方上手パパ 小杉 静江さん 子どもの面倒みながら物干しからおろした衣類の整理	
【優秀賞】	「父と子でそば打ち！！」 澁谷 崇央さん 親子で作ったおそばは、最高に美味しいおそばでした!!	
	「トト、おんぶ」 五十嵐 尚子さん 日頃から、育児に協力的な夫に対して、長男はとてもなついています。トト、大好きな様子が伝わる写真になったかと思います。	
【入 選】	「よく暖まりました」 磯野 絵美さん 仕事柄、毎日は無理ですが、早く帰宅出来た日はパパがお風呂に入れてくれます。息子も暖まっていますが、パパも仕事の疲れが取れてほっこりできる瞬間だそうです。	 「暖かい冬」 平田 有理奈さん 雪だるまとアイスクャンドルをつくり、2人で楽しそうにのぞいている父と妹を撮影しました。いつも忙しい父ですが、そんな日常のワンシーンを撮りました。 

本講座は、あさひかわ男女共同参画基本計画の目標とする社会の実現に向け、市民の理解をさらに深めることを目的として実施しています。

第2回目は、これからの社会を担う大学生の男女による、男女共同参画をテーマに、自分たちの考え方、すべきこと等について話し合う意見交換会を行いました。

- ・日 時：平成25年2月22日（金） 午後6時30分から7時30分
- ・場 所：H I ・R O ・B A（旭川市4条通7丁目 まちなか交流館2階）
- ・出席者：旭川ウェルビーイングコンソーシアム
学生自主組織「はしっくす」 7名



※以下、主な意見を紹介します。

<男女共同参画って何？>

- ・そもそも全てにおいて平等である必要はあるのだろうか？女性の社会進出により晩婚化も。社会全体がそれを当たり前とするなら過去からの風習が全くなくなる。女性が家で家事をするのも良いかと思う。
- ・男女間の差があっても今まで何とかなってきた。それで良いとは思わない。日本人として埋め込まれてきた部分を全て変える必要はないと思うけれど・・・。
- ・今の世の中を見ていると、このまま黙っていても女性に対する偏見はなくなくなると思う。男女間でコミュニケーションをとることができれば良いと思う。



<身の回りで感じる男女共同参画>

- ・ジェンダー（社会的文化的に作られる性別、性差のこと）についてはまず、親が子どもに教えていくべきかもしれない。
- ・自分の性別で悩む人もいる。それを分けるのは良くないかもしれない。男性と女性だけではない、性別を取り払った世界もあるかもしれない。

<これからの社会における男女共同参画>

- ・結局、男女共同参画って何かな？→全ての面において、最初からチャンスがつぶされていない状態。
- ・男女とも、自分の殻に閉じこもる必要はないと思う。女性の良いところ、男性の良いところを出し合っていけば良いと思うけれど、完全な平等は難しいとも思う。
- ・性別にとらわれず行動することを理解することも大切かもしれない。何でも認めれば良いとは思わないが、排除するのも良くないと思う。



<まとめ>

- ・男女共同参画＝全ての面において、最初からチャンスがつぶされていない状態。
- ・男女とも、自分の殻に閉じこもる必要はなく、それぞれの良いところを出し合っていけば良いと思う。
- ・性別にとらわれず行動することを理解することも大切かもしれない。

大学生の皆様には、意見交換の結果（まとめ）を今後の生活において実践していただき、それが友人、家族等を通じてますます浸透していくことを期待しています。本市としては、若い世代の感覚や考え方等を把握し、今後の事業展開の参考にしていきたいと考えております。

市内男女共同参画推進団体 リレー紹介 ④

<団体名>

旭川市母子福祉連合会

<設立目的>

母子・寡婦家庭の生活安定と向上，更なる自立支援対策等充実のため，自治体と連絡を密にして十分な研究，協議を積極的に推進している団体です。

昭和30年1月，旭川市母子会を結成して以来，市内各地区において母子会が結成され，現在，市内15地区が連携し，旭川市母子福祉連合会として活動しています。

<活動内容>

- ・土曜スクール・みのり開講（毎月第2・第4土曜日）
- ・旭川市母子福祉資金貸付（4月～翌3月）
- ・旭母連援助基金貸付（12月～翌11月）
- ・奨学金支給事業（高校生対象，前期（7月），後期（12月））
- ・赤い羽根共同募金（街頭ボランティア）
- ・旭川冬まつり甘酒販売
- ・その他，上記設立目的を推進するための各種活動



<「土曜スクール・みのり」受講生募集>

母子家庭のお子さんを対象に，月2回，大学生ボランティアによる学習塾を開講しています。

ボランティアの学生さんが，時には友達感覚で，パズルのような教材を使うなど工夫をしながら，子どもたちに納得のいくまで楽しく説明してくれます。このような環境で勉強するのも良いのではないのでしょうか？

受講対象	ひとり親家庭の子
対象学年	小学4年生～中学3年生
会 場	ときわ市民ホール（旭川市5条通4丁目）
開 講 日	毎月第2・第4土曜日（祝日も開催）
開校時間	午後1時～午後3時
講 師	大学生ボランティア（北海道教育大学旭川校）
受 講 料	無料
お申し込み	下記事務局まで



お問合せ 旭川市母子福祉連合会事務局
旭川市7条通10丁目 旭川市第二庁舎2階
旭川市子育て支援部 子育て相談課 相談室内
電話 0166-25-9107

平成24年度を振り返って

平成24年度においては，出前講座，リレー講座，講演会など，男女共同参画社会の実現に向け，市内の男女共同参画推進団体の皆様とともに取り組んでまいりました。

次年度以降においても，本市の男女共同参画基本計画に掲げる各種目標の達成に向け，引き続き取組を推進してまいりますので，皆様の御協力をお願いいたします。